京都の寺院におけるパフォーマンス

遠藤保子

【はじめに】

近年京都の寺院において、さまざまなパフォーマンスが行われ脚光を浴びている。筆者は、こうした寺院をオルターナティブ・スペースととらえ検討を行ってきた（遠藤保子　95年、96年、98年）。

そこで本研究では、まずどの寺院でどのようなパフォーマンスが行われているのか、次になぜ寺院で行われているのかを考察する。

【寺院とパフォーマンス】

オルターナティブ・スペースとしての京都の寺院には、法然院、紫雲山永蓮院、西山深草派道澄寺、浄土宗西山深草派日照山法雲寺などの他に、最近では妙蓮寺でもパフォーマンスが行われるようになっている。上述した寺院のうち、96年の舞踊学会で発表していた法然院と最近始めた妙蓮寺を除く3つの寺院においてどのようなパフォーマンスが行われているのかを報告する。

①　紫雲山永蓮院

左京区黒谷町の紫雲山永蓮院では、1994年秋から「アートスペース・永蓮院」が開催されている。これは、「寺というのは日本文化の象徴であり、その寺のもつ空間性が新しい芸術を生む。」という土肥真司住職の考えによって誕生した。永蓮院の本務に差し障りのない範囲でモダンダンス、インド舞踊、インスタレーション、コンサート、気功などさまざまなジャンルの催しが行われている。ここを利用した芸術家によると、寺院の雰囲気を取り込んだパフォーマンスになり劇場では味わえない作品になるという。施設は自由に利用でき、使用料金も決まっていない。永蓮院の特色の1つは、1992年9月に設立されたパフォーミング・アーツ・ネットワーク（PAN）の事務局があることだ。PANではパフォーマンスやバレエを中心に公演情報や公演評などを紹介する情報誌「PAN通信」を発刊し、芸術家間のネットワークを進めている。

②　西山深草派道澄寺

伏見区深草にある浄土宗深草派道澄寺は、銅板ぶき鉄骨3階建てというユニークな寺院である。鵜飼泉道住職は、「寺は本来地域のコミュニティーセンターであり、人々に開かれた場である。僧侶は悩みを持っている人々と日常生活のレベルで密接に関わりを持つべきだ。そのためには閉鎖的な寺院のイメージを変え、説教や仏典などを読むだけではなく、パフォーマンスという表現方法を取り入れることによって、寺は現代の人々にアピールすることができる。」と考えている。そして、1988年12月本殿の完成時の落慶法要には、ジャズ、ロック、フォークの演奏やアングラ演劇をもりこんだ法要が営まれた。またこれは、寺の活動をささえるグループ「道証会」（住職、音楽家、学生など）によって企画・運営・出演がなされたことは注目すべきであり、仏教に関心のない人々をも巻き込んだ取り組みとなった。

③　浄土宗西山深草派日照山法雲寺

北区西賀茂にある法雲寺でも1995年10月、西山国師遠忌お待ち受け法要「問法問僧」という仏教パフォーマンスが行われた。このパフォーマンスは現在の住職小島雅道と前述の鵜飼住職が共同で企画運営したものであり、小島住職の寺やパフォーマンスの考え方は鵜飼住職と同じである。

【市民の交流の場として新しい役割を担う寺院】

なぜ人々は寺院でパフォーマンスをするのだろうか。聖徳太子の時代から仏教を広めようとして舞踏や音楽を用いていたということや近世の寺院参詣が観劇や舞踊とが不可分であったことを考慮するなら、今日の寺院におけるパフォーマンスは、取り立てて新しいこととはいえない。従って冒頭で述べた脚光を浴びた理由として、レトロなものとして受け入れられたか、単に物理的側面からパフォーマンスを行う場が不足しているためという見方も成り立ちうる。

しかし、これまでみてきた寺院に共通していえることは、寺が一般市民の交流の場として新しい役割を担うべきだという思想的基盤が読み取れることである。しかも、ただ単にスペースを貸すというだけではなく、寺院は芸術家に寺院関係者の広い意味での仏教的な精神的関与（どのように生きるべきか、どのように環境と人とがかかわるのか）があってこその文化の場であり、その寺の醸し出す独特な空間によって新しい芸術が誕生する場ととらえていることである。新しい芸術の誕生に関しては、寺院関係者だけではなく芸術家自身も新しい表現が可能であると言及していることから両者にいえることであろう。また、ここで取り上げた寺院の殆どが浄土宗であることから、浄土宗の教義とパフォーマンスとの関わりが考えられるが、今のところ不明である。が、浄土宗はその他の宗派に比べると芸術を柔軟に受け入れる宗教的基盤はあると鵜飼住職は指摘している。

寺院におけるパフォーマンスは、人と人、あるいは超自然とのコミュニケーションを復活させ、環境との共生原理を模索する文化的「装置」ともいえるのではないだろうか。

【参考文献】

遠藤保子：95年パフォーマンスオルターナティブ・スペース　立命館大学産業社会論集31巻3号
小池一子：92年空間のアウラ白水社　小林進：98年オルターナティブ・スペース論ダンスワーク40